

大賞 農山漁村活性化部門

道の駅ふたつ  
直売所出荷友の会

人とモノをつなぐ県北のゲートウェイを目指して

所在地/能代市

平成30年に道の駅のリニューアルに伴って発足し、地元の特産品を中心に、県北地域の魅力ある商品が集まる直売所を目指して取り組んでいます。

出荷会員の募集を県北地域に広げることで若手会員を確保しているほか、売り場での顧客に対するニーズ把握・



イベント開催・会員への食品衛生講習や研修等により、組織規模と販売額を拡大しています。



特に、「にんにくフェア」や「山うどまつり」などのイベントは、道の駅全体の集客向上のほか、地域の観光スポットや商店街へ足を運ぶ新たな人の流れの創出にもつながっています。

さらに、地域商工業者等の協力を得ながら、能代産ラズベリーを活用した6次産業化も推進するなど、多方面から地域経済の活性化に貢献しています。

各部門の表彰対象

産地部門

産地の特徴を活かし、積極的な産地拡大に取り組む農業者等で組織する集団

担い手部門

【経営体の部】

農業・漁業経営で優良な実績を上げ、地域のモデルとなる個人や法人等

【未来を切り拓く新規就農の部】

地域の担い手として、活躍が見込まれる新規就農者や農外からの参入者等

農山漁村  
活性化部門

6次産業化、食育、直売活動、耕作放棄地活用、グリーン・ツーリズム等、地域を活性化している法人、集落、集団等



令和7年度  
ふるさと秋田  
農林水産大賞



受賞者の紹介

「ふるさと秋田農林水産ビジョン」の目指す姿の実現に向けて、模範となる活動を展開し、顕著な実績を上げている農林漁業者等を表彰するとともに、その取組を広く普及し、魅力ある農林水産業と農村漁村づくりを推進することにより、先人が作り上げた美田や豊富な森林資源などを次の世代に受け継いでいきます。



産地部門

JAこまちネギ部会  
(湯沢市)

担い手部門

【経営体の部】  
小田嶋 潤平  
(横手市)

農事組合法人なりた農園  
(鹿角市)

【未来を切り拓く新規就農の部】  
藤澤 大和  
(大仙市)

農山漁村  
活性化部門

道の駅ふたつ  
直売所出荷友の会  
(能代市)

秋田県



大賞 産地部門  
農林水産大臣賞

JAこまちネギ部会

雄勝に秋田のねぎを支える産地あり！  
～地域の技を生かし、若い力で発展し続ける産地～

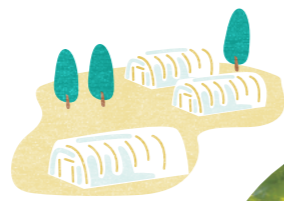
所在地/湯沢市、羽後町、東成瀬村  
生産規模/ねぎ 36.3ha 構成戸数/59戸

平成23年に発足し、栽培講習会や目揃い会などで栽培技術の研鑽に励み、平成24年に販売額1億円を突破しました。平成30年と令和3年に園芸メガ団地事業に取り組んだことでさらに生産が拡大し、現在では出荷量・



販売額ともに県内2位の産地となりました。若手生産者も多く、さらなる発展が期待されます。

県内有数の豪雪地のため出荷時期が短いことが課題でしたが、県農業試験場が開発した越冬苗技術の導入による夏ねぎの出荷開始時期の前進化や、部会員が開発した自走式の調製小屋「ねぎ魔神」による省力化、部会全体で取り組む排水対策など、特色ある技術がねぎ産地の拡大へとつながっています。



大賞 担い手部門  
農林水産大臣賞

小田嶋 潤平

ぶどう栽培の常識を覆す「省力化・高品質・大規模化」の実現

所在地/横手市  
生産規模/ぶどう 1.9ha



祖父が営むぶどう園を手伝う中でぶどう栽培に魅力を感じ、「未来農業のフロンティア育成研修」の果樹コースを経て平成28年に就農しました。

市場ニーズの高い「シャインマスカット」などの大粒種へ改植し、園内を全て「一文字仕立て」に統一。

作業動線の直線化や予備摘粒の工夫による摘粒時間の3割削減など、徹底した省力化により短期間で大規模経営を実現しました。

全園に簡易雨除けハウスとかん水装置を設置し、水分管理を徹底することで高品質な果実の安定生産を実現し

ています。

SNSやホームページで生産者のこだわりを丁寧に発信するとともに、贈答用の箱詰めから、家庭で気軽に楽しめるパック商品まで幅広い直売活動を展開しています。



大賞 担い手部門  
【経営体の部】

農事組合法人なりた農園

鹿角で花咲け！周年農業の実践

所在地/鹿角市  
生産規模/水稻27ha、新テッポウユリ0.5ha、イチゴ0.045ha、菌床しいたけ9,270床



平成30年に「農事組合法人なりた農園」を設立し、稲作を基幹に、新テッポウユリやイチゴ、菌床しいたけ等の作物を組み合わせ、周年農業を実践しています。

また、令和4年度に指導農業士となり、後進の育成に取り組んでいるほか、JAかづの花き生産者部会では、令和6年度から部会長として、花きの産地拡大に尽力しています。

新テッポウユリでは、今年度から機械定植を実施するなど、省力化と規模拡大に向けた取組を実践しています。

イチゴでは、法人化を契機に大手旅行サイトと提携し、



収穫体験ツアーを実施しています。募集開始から2週間で予約枠が埋まるほどの人気で、関東圏からのツアー客をはじめ、県内外からの集客に成功しています。



大賞 担い手部門  
【未来を切り拓く新規就農の部】

藤澤 大和

祖父との思い出を胸に、目指せ大規模ねぎ栽培！

所在地/大仙市  
生産規模/ねぎ3.9ha、大豆1.5ha、水稻7.6ha



他産業に従事していたものの、祖父の手伝いを契機に就農を決意し、大仙市で研修を受け、令和4年に就農しました。

国の事業等を活用して機械・設備を整え、徐々に作業人員を確保するなど、実質3年で就農時の規模(ねぎ0.9ha,大豆1.8ha,合計2.7ha)から約5倍まで拡大しています。

ねぎでは、ロングピッチ連結ペーパーポット育苗によるコスト低減のほか、水分量が少ない夜間に収穫作業を行うことで品質低下を防ぐなど、たゆまぬ経営努力によって収益を確保しており、単収はJAの部会でもトップクラスを維持し

ています。

さらに、地元スーパー等と直接取引を行うなど、消費者や実需者等のニーズに対応した新たな取組も始めています。

